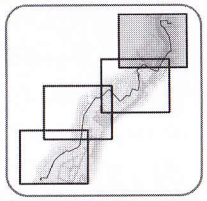
赤穂浪士

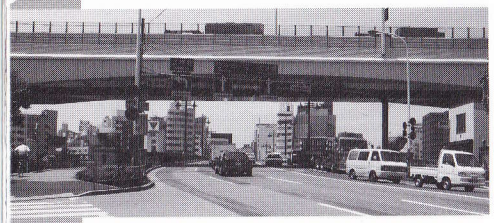
引き揚げルートを歩く

元禄15（1702）年12月14日、吉良邸に討ち入り、本懐を遂げた赤穂浪士たち。彼らが次に目指したのは主君浅野内匠頭が眠る泉岳寺だった。

浪士たちは、2時間の戦闘の後に本所の吉良邸を出発。隅田川に沿って御船蔵後通りを歩き、永代橋を霊巌島へ渡った。そして鉄砲洲にあった元藩邸前を通過して汐留橋へ。そこから東海道を南下して泉岳寺に到着した。およそ11キロの道のりを、約3時間で歩いたといわれている。



全行程図拡大図はP122



▲現在の両国橋付近。当時の両国橋は80メートルほど下流に架けられていた

午前4時、吉良邸に討ち入る

一 吉良邸跡 ➡P66

12月14日は晴天で、路上には前日に降った雪が積もっていたという。赤穂浪士たちが吉良邸に討ち入ったのは14日の深夜寅の刻（当時は夜明けまでを前日としていた。今の暦では翌15日の未明午前4時ごろになる）。最初、火消を装って邸内に入ろうとしたが、不審に思った門番が門を開けなかったため、強行突入。その際一行は、23人と24人の二手に分かれ、表裏両方の門から一気に邸内になだれこんだ。

そして、2時間に及ぶ激闘の末に吉良上野介を討ち取ると、全員の無事を確認して裏門より撤退した。

入山を拒否される

二 回向院 ➡P68

赤穂浪士たちは、吉良邸の裏門から出ると、隣接する回向院の境内で態勢を整えようとした。しかし、面倒を恐れた回向院では、暮れ六つから明け六つまでは山門を開けない、という寺法を盾に取って浪士たちの入山を拒否した。

午前6時、隅田川沿いを南下する

三 両国橋 ➡P69

回向院で門前払いとなった浪士たちは、やむなく両国橋の東詰へ向かう。そこは見通しのよい広場になっていて、上野介の首を取り返しにくるであろう吉良・上杉の軍勢を見張るのに都合がよかったからだ。しかし、いくら待っても追っ手は現れず、大石内蔵助は泉岳寺へ向かうことを決断した。

当時、毎月15日は、江戸在府の大名や旗本が江戸城に総登城して将軍に拝謁するのが慣例になっていた。登城する大名たちと鉢合わせして、無用な争いをするのは避けなければならない。大石は、両国橋を渡らずに隅田川沿いを南下することに決めた。

▲吉良邸跡地の一角にある本所松坂町公園

負傷者のために駕籠を調達

四 一之橋 ➡P70

赤穂浪士たちが、竪川に架かる一之橋（旧一ツ目之橋）にさしかかると、そこに堀部安兵衛や奥田孫太夫の剣術の師匠、堀内源左衛門の門弟たちが待ち構えていた。彼らは、堀部たちに師からの祝辞を伝えたといわれる。

さらに一之橋を渡って南下。現在の万年橋通りはかつて御船蔵後通りといい、隅田川沿いに幕府の御船蔵が並んでいた。この付近で、大石は駕籠を調達し、負傷者や高齢者を乗せたという。

隅田川に沿って進む

五 万年橋

しばらく行くと、前方に小名木川に架かる万年橋が見えてくる。当時の橋は、船の運航を妨げないように高く架けられていて、ここからの富士山の眺めが素晴らしいことで有名だった。

浪士たちは富士山を西に見ながら万年橋を渡ると、その先で右折して仙台堀川（旧仙台堀）に架かる上之橋をはじめ、中之橋、下之橋と3つの橋を越えた。橋は3つとももうないが、読売江東ビルの向かいに上之橋の碑が立っている。